

ツヤハダゴマダラカミキリ

分類: コウチュウ目カミキリムシ科ゴマダラカミキリ属

和名: ツヤハダゴマダラカミキリ

学名: *Anoplophora glabripennis*

英名: Asian long-horned beetle

別名・流通名: 光肩星天牛(中国)

原産地と分布: 中国、朝鮮半島北部(移入分布: ヨーロッパ、北米、日本)

未判定外来生物: なし

種類名証明書添付生物: ツヤハダゴマダラカミキリ

形態的特徴: 成虫の体長は17～40 mmで、とくに30 mm前後のものが多い。成虫の体色は光沢のある黒色をしている。触角は長く、黒色と淡青色の縞模様をしており、オスは特に長い。前胸背板の側方に目立つ1対のトゲ状隆起がある。背面には白色の斑紋がある。

ツヤハダゴマダラカミキリ



在来種 ゴマダラカミキリ



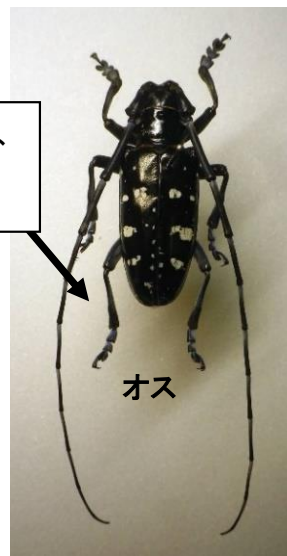
類似種との識別点:

国内にはゴマダラカミキリ等、同属の在来種4種が分布している。各種とも類似するが、上翅のつけ根の細かい突起の有無等の特徴から識別できる。



ツヤハダゴマダラカミキリ
の産卵痕

オスの触角は長く、
体長をはるかに
超える



特記事項: 既に、日本国内において、アキニレ等の街路樹や植栽木への加害が確認されている。本種の定着域では、被害木の枯損や落枝・倒木等により人への被害が発生する危険性もある。また、本種の寄主植物のうちリンゴ属、ナシ属、バラ属等は、農産物として全国的に栽培され、食害等による農林業への被害のおそれがある。

サビイロクワカミキリ

分類: コウチュウ目カミキリムシ科クワカミキリ属

和名: サビイロクワカミキリ

学名: *Apriona swainsoni*

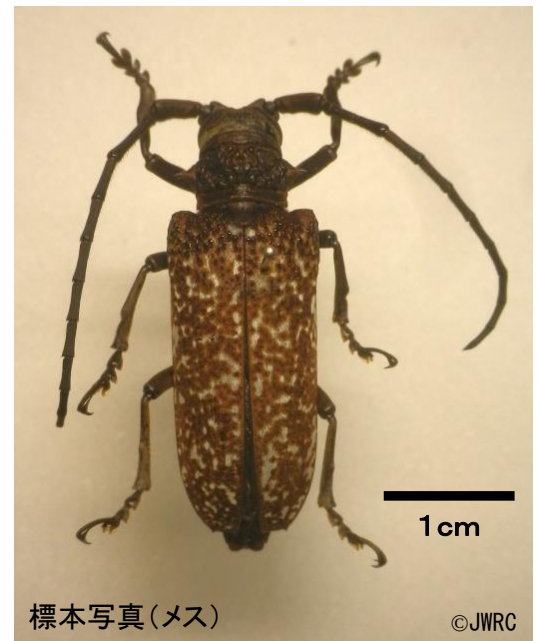
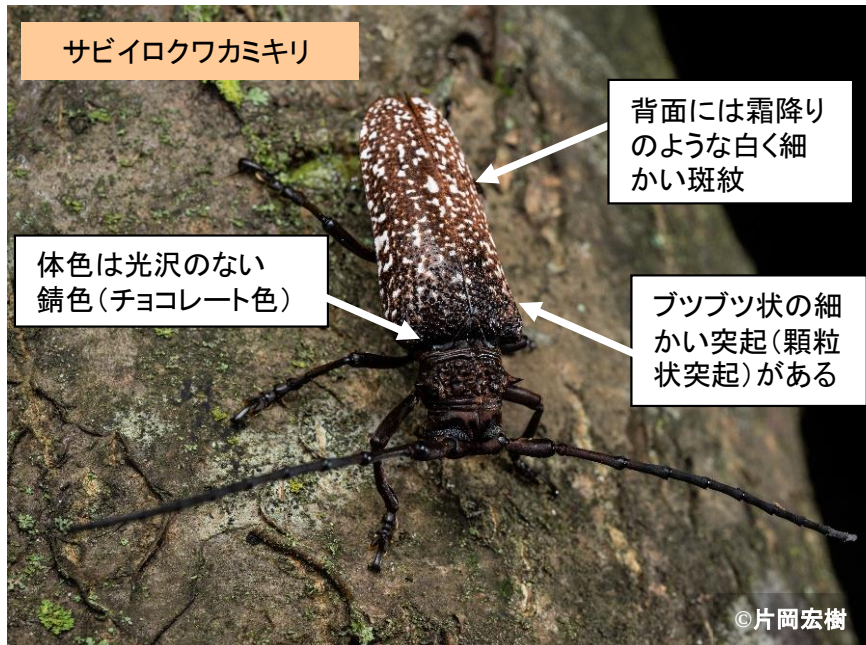
別名・流通名: 錆色粒肩天牛(中国)

原産地と分布: インド、ミャンマー、カンボジア、タイ、ベトナム、ラオス、中国、朝鮮半島など(移入分布: 中国は国内移入による侵入地域あり、日本)

未判定外来生物: なし

種類名証明書添付生物: サビイロクワカミキリ

形態的特徴: オスは体長26.4mm～33.6mm、メスは体長33.8mm～39.7mm。頭部には中央に縦溝があり、複眼は暗褐色で大きく目立つ。オスの触角は体よりやや長く、メスの触角は体よりやや短い。成虫の体色はサビ色で背面に白い斑点があり、上翅基部には顆粒状の突起がある。



サビイロクワカミキリの産卵槽(産卵マウンド)
産卵槽は樹幹に成虫の分泌物で塗り固められた円丘を形成する特徴を持つ。



サビイロクワカミキリの排出孔
幼虫の排出孔は1か所で繊維状の木屑を出す。



類似した種との識別点:
国内にはクワカミキリ等、同属の在来種3種が分布するが、上翅斑紋の特徴から容易に識別できる。

特記事項: 既に、日本国内において街路樹や市街地等に植栽されているイヌエンジュ、エンジュへ加害し、枯損させる事例が確認されている。街路樹等の植栽樹が加害されることで、景観へ悪影響を及ぼす他、市街地での公共の場において被害木の枯損や落枝等による人への被害が発生する危険性もある。

クビアカツヤカミキリ

分類: コウチュウ目 カミキリムシ科 ジャコウカミキリ属

和名: クビアカツヤカミキリ

学名: *Aromia bungii*

英名: Redneck longhorned beetle

Plum longhorn beetle, Peach longhorn beetle

別名・流通名: アロミア・ブンギ

原産地と分布: 中国、朝鮮半島、台湾、ベトナム北部、ロシア極東部など

未判定外来生物: なし

種類名証明書添付生物: クビアカツヤカミキリ

形態的特徴: 成虫の体長は、約2.5～4.0cm。日本で発生が確認されているものは、全体的に光沢のある青みがかった黒色で、前胸部が赤く、前胸背板の側方には1対のトゲ状隆起がある。海外では、前胸部が黒い個体も確認されている。



クビアカツヤカミキリ（メス）



クビアカツヤカミキリの幼虫の排出したフラス



在来種ジャコウカミキリ

類似した種との識別点:

国内には同属の在来種ジャコウカミキリ(*Aromia orientalis*)が北海道にのみ分布している。本種は、前胸部がクビアカツヤカミキリと同様に赤色で、体型も類似するが、全体的な体色が緑青色をしていること等で識別出来る。

全体に黒みがからず
青～緑青色

全ての写真提供: 自然環境研究センター

特記事項: 既に国内において、街路樹や公園等の植栽のサクラ、ウメやモモ等の果樹へ加害し、枯損する事例が確認されている。幼虫が入り込んだ樹木の根本からは、フラスと呼ばれる木屑と虫糞の混合物が樹皮に開けられた孔から排出される。このフラスは、幼虫が大きくなるにつれ、挽肉状に連なったものが大量に排出される。加害が進むとフラスは樹幹の上部からも排出される。在来のカミキリムシや他の昆虫にもフラスを排出する種がいるが、バラ科樹木から大量のフラスが確認された場合はクビアカツヤカミキリを警戒する必要がある。